



廿日市市教委だより

令和元年
5月29日
第2号

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～



元号が「令和」になり、新しい時代の幕開けを迎えました。各学校においても、新たな気持ちで日々の教育活動に専念されていることと思います。

さて、市教育委員会では、今年度も学校の魅力あふれる取組や関連情報を掲載した「市教委だより」を発行していきます。今年度は、連載記事に新コーナー「スポットライト」を加え、子どもたちの学びの様子や様々な場面で活躍されている先生方のホットな情報を伝えていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



子どもたちが自ら進んで学ぶ教育を進めます！

令和元年度は、「学びの変革」全県展開の2年目です。昨年度の課題を踏まえた上で、すべての教員が「課題発見・解決学習」の単元を一単元以上実践し、さらなる改善を図ります。

令和元年度に各校で取り組むこと

- すべての教員が「課題発見・解決学習」を領域・学年を拡大して、1単元以上実施
- カリキュラム・マネジメントに基づいた授業の実施
- 「資質・能力の評価」に関する研究を校内研修で実施

令和元年度 廿日市市「学びの変革」推進協議会

- 〔第1回〕 6月18日（火）四季が丘小学校
授業者：小田 紫 教諭（6年 国語）
- 〔第2回〕 7月30日（火）はつかいち市民大野図書館
終日実施予定の教務主任研修と午後から合同で実施。（大竹市と合同実施）
- 〔第3回〕 2月4日（火）地御前小学校
「総合的な学習の時間」の授業提案を予定

今年度の取組のポイントは？

すべての子どもの主体的な学びの実現に向けて！

◆「受ける」から「参加する」授業へ

- ・カリキュラム・マネジメントに基づき、単元や教科をつなぐ視点から、「課題発見・解決学習」の開発単元をブラッシュアップ！
- ・授業において子どもが考えを説明する場面を重視した授業づくり
→動画再生や写真等により、授業場面を可視化して検証する校内研修の工夫を！

◆児童生徒に「考えを持たせる」「考えを説明させる」ための効果的なICTの活用

- ・「どんな場面で」「どのように活用するのか」等、授業のねらいに迫る意図的な活用を！

日々の授業の質の向上

「課題発見・解決学習」の実践を、
日頃の授業改善につなぐ

子どもたちに寄り添い心を育てる教育を進めます！

今年度は、「明日も行きたくなる！」学級づくり」「児童生徒の自主的な活動づくり」の2本柱を掲げ廿日市市小・中学校の生徒指導方針を示しています。この2本柱はそれぞれ独立しているものではなく、「学級づくり」が児童会・生徒会などの「自主的な活動づくり」につながり、また児童会・生徒会などの「自主的な活動づくり」が「学級づくり」につながるものであり、一部の学級や学年ではなく学校全体でいじめを許さない支持的風土を醸成することが重要です。



「明日も行きたくなる！」学級づくり

○「つながり支援プロジェクト」の徹底

- ・あらゆる教育活動について、「自己有用感」を育成する視点（存在感[安心できる]→承認[認められた]→貢献[役に立った]）で捉え、価値付けていく取組

○生徒指導上の諸課題の改善

- ・不登校 「つなプロ」による未然防止の取組や「アセスの効果的な活用」による早期発見・早期対応の取組を通して新規の不登校をなくし、不登校児童生徒には社会的自立に向けた取組（欠席日数減少、行事参加、別室登校等）を推進
- ・いじめ 「教職員研修資料 いじめ問題に取り組む」をもとに校内研修を行い、いじめに対する組織的な早期発見・早期対応ができるような体制を構築
- ・暴力行為 暴力を許さない風土の醸成とともに、再発防止に向けた組織的な支援体制（特別な指導、保護者面談、特別支援教育の視点等）の構築

○アセスの効果的な活用

- ・校内研修や学年会等で、「個人特性票」の要支援領域の因子、「生活満足感」を中心とした因子間の相関関係を踏まえて共有化・協議し、組織的な支援体制を構築



児童生徒の自主的な活動づくり

○生徒会サミット

- ・自治 生徒会担当者会を通して、生徒会サミットを軸にした1年間の計画的な生徒会自治
- ・交流 生徒会サミットを通して、生徒会活動の交流と活性化
- ・継承 生徒会サミットで交流した取組成果や、協議によって得られた方針を全校生徒や児童会に普及させ、リーダーの育成を継承

相互作用

○特別支援教育の視点に基づいた学習指導と生徒指導

特別支援教育の視点に基づくとは、つまり「出来ないことを子どものせいにはしない。」という立場に立つことです。なぜ出来ないのか、どうやったら出来るようになるのかを考え、指導・支援していくのが我々教師の大きな役目です。そこで・・・

- ① **適切にアセスメントする力と対応力の向上**を目指しましょう！
 - ・できない、やろうとしないその背景にある要因を把握し、個に応じた指導・支援を行う。
- ② **ユニバーサルデザインの考え方を生かした教育活動**を展開しましょう！
 - ・時間の構造化 ・情報伝達の工夫 ・参加の促進 ・内容の構造化
- ③ **家庭や関係機関と丁寧に連携**しましょう！
 - ・「切れ目のない指導・支援」のために、情報をしっかり共有する。



スポットライト!

~この人に注目~

一校長として何を大切にしていますか？

①「(生徒や先生たち) どのように気持ちを「伝え合おうか」ということです。…元来、私は話すことが苦手なので、文章で伝えたり、場合によっては言葉以外で伝えようとしていたり、色々な方法を考えて工夫します。」

一野坂中の学校だよりには、毎回「校長先生から…〇月のメッセージ」というコーナーがありますよね。それもその1つということですか。

①「そうですね。最近では、そのメッセージを道徳の学習内容などと一緒に校内掲示して、職員室前廊下の一角を『道徳の小路』と考えています。」



野坂中学校 校長 井村 誠治 先生

一気持ちを通じ合わせるためには、一方的にならないようにしなければいけないよね。

①「生徒にも先生にも、『この人何を言っているだろう?』というような伝え方をする人がいます(笑)。しかし、聞く側が、相手の思いを推察し、汲み取れるような人になって欲しい。そんな思いがあります。それと、場合や年代によって違う時がありますが、なるべく自分の口で思いを言ってもらえるような場面を意識しています。」

井村校長先生は色々な事を剣道に例えて分かりやすく話してくださいました。何とも言えない、懐の深さを感じる「人」でした。



「野坂中 平成30年度学校だより」より

「命の大切さについて考える日」

今から6年前の5月8日。廿日市市内の女子生徒が自ら命を絶つという痛ましい出来事が起こりました。

6回目を迎えた当日の朝、教育委員会では奥教育長より職員に対する訓示がありました。

その中で、特に印象に残っている言葉を2つ紹介します。

- このような出来事は、二度と繰り返してはいけないことであり、我々は決して風化させてはならない。このことを胸に刻んでほしい。
- この取組は「教育委員会総体」で取り組む。

つながれ! 広がれ!

「宝の山」

当時を知る教育長が、時折声を詰まらせながら話す姿を見て、語り継ぐべき我々は、子どもたちにこの「思い」を届けるような取組ができていくのだろうかと考えさせられました。

今年度も全校集会で、校長・教頭等が先頭に立って「命の大切さ」について訴えたり、児童会や生徒会がいじめの防止に向けて主体的に呼びかけたり、道徳の時間で命の大切さについて考えたりする等、子どもの心に響く取組が多くありました。

この取組を、この日1日だけのものにせず、年間を通して繋ぎ、まさに「廿日市市全体」で決してこのことを風化させない、いじめを許さない雰囲気醸成するようにしていきたいと思ひます。



廿深!!『学びの変革』①

昨年度は、すべての先生方が、年間指導計画に位置付けた「課題発見・解決学習」の単元を実践し、各校において検証・改善を進めていただきました。

今年度は、各教科等における「課題発見・解決学習」の実践を領域・学年を拡大して、1単元以上実践・改善し、日頃の授業の質の向上を目指したいと思ひます。

「廿深!!」をキーワードに、先生方自らが「主体的・対話的で、深い学び」を通じた研鑽を積んでいきましょう。一年間、連載しますので、どうぞよろしくお願い致します。

全ての児童生徒の「主体的な学び」の実現

令和2年度
令和元年度
全教員が、領域・学年を拡大して、1単元以上実践・改善

平成30年度
全教員が、各教科等の「課題発見・解決学習」1単元以上実践・改善

「課題発見・解決学習」をはじめとした「主体的な学び」を促す授業の実践を複数積み重ねることで、日頃の授業改善が進みます。



第1回「学びの変革」推進協議会では、四季が丘小学校第6学年国語科の授業研究、学力フォローアップ校(阿品台東小学校)の実践報告を行います。

これらの内容を基に、各校研究主任を中心に研究を進めていきましょう!

